

SENREI MEETS

JEAN-JACQUES ROUSSEAU

千麗舞あけの夕

振付・舞踊 / 小川珠絵

構成 / 西川千麗

或る日の夕

「孤独は散歩者の夢想」より

作曲・演奏

橘政愛 (打楽器)

上田益 (ピアノ)

河崎純 (コントラバス)

服部将典



撮影・市毛實

◎衣裳調製 / 小林衣裳店 ○マント製作 / 鞆田順子 ◎ヘアメイク / 丸善 ◎舞台製作 / 京都舞台
 ◎照明 / ホシノ貴江 ◎舞台監督 / 大谷みどり ◎音響 / 粕谷和弘
 ◎チケット / 三〇〇〇円(自由席) 五〇〇〇円(特別指定席) ◎チケット取扱 / 千麗の會・アルティ(自由席のみ)
 ◎問合せ・申込み / TEL・FAX: 075-822-0217(千麗の會) TEL・FAX: 075-322-7627(ホンノ) E-mail: senreinokai@yahoo.co.jp
 主催 / 千麗の會 <http://www.senrei-nishikawa.com>
 京都府民ホールアルティ / 京都市上京区烏丸一条下ル TEL: 075-441-1414 ※駐車場はありません。小さなお子様のご入場はご遠慮下さい。

2013年4月12日[金] 午後7時開演 [6時30分開場]

京都府民ホールアルティ



こうしてわたしは地上でたったひとりになってしまった。もう兄弟も、隣人も、友人もいない。
自分自身のほかにはともに語る相手もない。

ルソー「孤独な散歩者の夢想」-〔第一の散歩〕より
今野一雄訳 岩波文庫

原作「孤独な散歩者の夢想」を初めて読んだ時のこと
一気に読み終え
これは死の直前に自分の一生を走馬燈のように見るといふ その夢想を書き綴ったものだ
何といふ人だ この人は
かつて「阿留辺幾夜宇和」創作の時、明恵上人が死の直前に自分の一生を見た夢を
舞台にくり抜ければよいのだ との着想を得て するすると出来上がりました
叔母の最後を看取ったとき その様子に 今叔母は— と思った その時間
それは全く無秩序に 心に強く残っていたものが 流れるように立ちあらわれるのであろう
何といふ人だ この人 ルソーは 自分の最後の時に見る その走馬燈を
死の二年前から 書き綴ったのだ

千麗

SENREI MEETS JEAN-JACQUES ROUSSEAU

ジャンジャック・ルソー

Jean-Jacques Rousseau
(1712-1778) ジュネーブ共和国(現スイス)生

思想家・著述家・音楽家・植物学者。少年期より放浪のうちに独学し、社会・芸術に関する論文を発表、恋愛小説「新エロイズ」は欧州全土でベストセラー、文化的寵児となる。人民主権と民主主義に基づく「社会契約論」人間の自然な成り立ちに添う教育を理想とする「エミール」が当時の王権・宗教界への痛烈な批判として発禁処分となり、一転して社会的に弾劾される。各地を転々としながら植物学に傾倒。「孤独な散歩者の夢想」は写譜の仕事でつましく暮した晩年、パリ近郊を歩きながらの内省を著述した遺作。日本で童謡「むすんでひらいて」として知られる旋律は、ルソー作曲のオペラ「村の占い師」の一節が広まったもの。

西川千麗 Nishikawa Senrei

京都生まれ。二代目家元西川鯉三郎、三代目家元西川右近に師事。1981年より創作舞踊公演「千麗舞の夕」を始め、京都・東京で毎年開催。2000年より自作品の海外公演を始め、00～01年ポーランド・クラコフ、ワルシャワ、プウォックで「雪女」(原作小泉八雲)・「よだかの星」(原作宮沢賢治)を上演。03年「明恵 夢を生きる」より阿留辺幾夜宇和(あるべきようは) (原作河合隼雄)でイタリア・ドイツ・スイス3カ国巡演。07年「カミーユ・クロード」でフランス・スイス巡演。上記各国とアメリカでデモンストレーション・レクチュアを実施。作品の構成、振付、脚本、衣裳、舞台美術、音楽の全てを自己の原案で創り上げるスタイルを貫き、高い精神性と現代的感性にあふれた作風は、日本舞踊の世界を超えた幅広い観客層の支持を得た。2012年12月逝去。

小川珠絵 Ogawa Tamae

舞踊家、舞踊作家。日ヶ丘美術コース彫刻科卒。1980年より本格的に踊りに取り組み、学生時代の絵画や彫刻の制作を元に肉体的表現のなかに美術の要素を取り入れユニークな作品を作り始める。1989年肉体と美術の融合をコンセプトにした「舞台美術館」のシリーズを立ち上げる。舞踊のジャンルにとらわれず、新しいものを生み出し、奇抜な発想と斬新な振付で創作活動を続けている。主宰するTMPスタジオ、T.Mパフォーマンス・プロでの舞台創作、ダンスフェスティバルや劇団・ミュージカル振付・CM・イベント・ショーダンスなどへの作品提供、また講師として表現者育成にあたる。

上田益 Ueda Susumu

作曲家、サウンドプロデューサー。京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。廣瀬量平氏に師事。京都音楽協会賞受賞。クラシック音楽の作曲のほか、長野オリンピック公式楽曲「WINTER FLAME」の作曲や神戸ルミナリエの音楽、またテレビドラマ音楽、NHKの番組音楽などを手掛ける。2008年より追悼と希望の合唱プロジェクト「レイエム・プロジェクト」を神戸で実施。千麗作品「あのにむ」-「雪女」より「明恵 夢を生きる」より阿留辺幾夜宇和「独語独笑一鎮魂」杉田久女がことなど。

橘政愛 Tachibana Masayoshi

打楽器奏者。国立音楽大学打楽器専攻卒。既成の打楽器に加え、鉄片、木片、植木鉢などを使い、独自の透明度の高い音で作品(創作舞踊・語りなど)の内容に添った音楽を創る。日本の文化に深く関わりのある竹に興味を持ち、自ら楽器を創り音楽を奏でる「東京楽竹団」を結成。代表を務める。千麗作品「千麗源氏物語」「阿留辺幾夜宇和」「よだかの星」「あのにむ」一般若心経をテーマに、村上華岳の絵をモチーフに「千麗十牛図」など。

河崎純 Kawasaki Jun

作曲家、コントラバス奏者。演劇・ダンスを中心に舞台作品の音楽監督、作曲、演奏を行い、2007年より普通劇場(大岡淳主宰)の音楽監督を務める。2008年静岡舞台芸術センター(SPAC)「大人と子供によるハムレットマシーン」。2010年日本トルコ現代音楽制作「sound migration」参加(国際交流基金主催)。2012年トルコの振付家アイディン・テキヤルと「db-II-bass - 音、身体、楽器db-II-bass - 音、身体、楽器」をイスタンブールで初演(セゾン文化財団、アサヒビール助成)。近年はモスクワでの公演、またセルゲイ・イレーツァ音楽家を迎えての共演などロシアとの関連を深めている。千麗作品「よだかの星」「女人賛歌―未完・畜生塚」「カミーユ・クロード」。